

公開実用 昭和62- 162070

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭62- 162070

⑪ Int.CI.

B 42 F 13/04

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和62年(1987)10月15日

A-6970-2C

審査請求 有 (全頁)

⑭ 考案の名称 書類綴り具

⑮ 実 頼 昭61-48132

⑯ 出 頼 昭61(1986)4月2日

⑰ 考案者 服部 敏彦 東京都荒川区西日暮里4丁目23番2号

⑱ 出願人 服部 敏彦 東京都荒川区西日暮里4丁目23番2号

⑲ 代理人 弁理士 安達 房次郎

BEST AVAILABLE COPY

明細書

1. 考案の名称

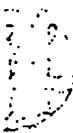
書類綴り具

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 可撓性はあるが伸縮性が小さい、表面を軟質合成樹脂で被覆した適宜径および長さを有する綴り紐と、帯状板の上面に、その長手方向に沿い、相互に並行した二条のリブを立設して前記リブの対向する内側面と押え板上面とによって一条の綴り紐押込み溝を形成すると共に、前記溝の巾および深さは、前記綴り紐の径よりも僅かに狭いものとし、また、前記溝の底面長手方向適所に、少なくとも二個所の綴り紐径よりも僅かに太径の綴り紐挿通孔を穿設してなる帯状押え板より構成した書類綴り具。

(2) 带状押え板は、硬質合成樹脂、アルミニウム材等の押出し成形材より成る実用新案登録請求の範囲第(1)項記載の書類綴り具。

(3) 綴り紐押込み溝の断面内側壁は、U字形、V字形またはひ形より成る実用新案登録請求の範



図第(1)項または第(2)項記載の書類綴り具。

(1) 綴り紐の軟質合成樹脂被覆材の表面は、やや
粘着性があって粗面であることより成る実用新
案登録請求の範囲第(1)項記載の書類綴り具。

3. 考案の詳細な説明

1) 考案の目的

<産業上の利用分野>

本考案は、資料、ニュース、カタログ、伝票その他の、枚葉、書籍等の綴り具に関する。

<従来の技術>

この種綴り具で広く使用されてきたものは、第4図に示すように両側縁を丸めた帯状金属板1の長手方向適所に矩形状または丸形の孔2を設けて、ここに下側から綴り葉3に穿設した綴り孔4を通して押込んだ金属綴りバンド端を、帯状板1の長手方向に沿って相互に折曲げ、綴られた資料の量でバンド端の折曲げ部5が旧に戻らぬよう帯状板1の長手方向に沿い、その両側縁に係合して摺動する押え片6を、バンド折曲げ部5に移動してバンド端を押えるようにしたもののが知られている。そ

の際に、一度セットした押え片6が外力により移動しないようにバンド折曲げ部5上に凹凸条の押え片係止部を設けるとか、金属綴りバンドのかわりに合成樹脂製バンドを用い、その帯状金属板1に穿設した綴り孔4縁に接触する部分に凹凸条を施して帯状板1と合成樹脂製バンドとの間の摩擦力を強くし綴り力を確実なものとするとか、押え片を有底状にしてバンドの折曲部を保持するようにした綴り具なども、しばしば使用されている。しかしながら、この種の綴り具は、部品点数が多く、各部品の成形加工および、その組立てのための工数が大であるとか、バンド折曲げ部に使用中、くせが付くとか、押え片がバンド折曲げ部より外れて用をなさない等の欠点があることが知られている。

第5図は、広い観点から云って本考案綴り具の技術の領域に属する書類綴り具の斜視図で、その全体は、やや硬質の合成樹脂成形帯状板1-1とビニール紐5-1により構成されていて、その帯状板1-1は図示のように断面がヨ字形で、そ

の長手方向端部近辺の適所に中央隔壁7を通して綴り孔2を穿設する一方、長手両側縁を形成する側隔壁8を、その中央部に対して対称に切欠いて9成形されている。ビニール綴り紐5-1は、中央芯の伸縮しない纖維を囲んで軟質の合成樹脂材を被覆し、可撓性を持たせたものであって、その径は、やや太めで綴り葉3に設けた綴り孔4の縁に紐が接触したときにもタッチが軟かであり、また、前記帯状板1-1の二つの溝10の横巾よりも、やや太く出来ていて軟質材の弾性を利用して紐5-1を溝10内に押込むときには、変形して確実に溝内に装着され、また軟質材の表面の摩擦力によって安定し、僅かな外力では紐を溝10から脱すことができない。

図示のようにビニール紐5-1は、その両端を綴り葉3の孔4を通して帯状板1-1の綴り孔2に挿通され、その余の部分は溝10内に折曲げ押込むことにより、綴られた資料を確保するようにされている。この際、紐5-1の折曲げ端余部を帯状板の側隔壁8の切欠部9を介して板1-1の外

側に露出させておけば、再度、資料を綴り込むとき、綴り紐 5-1 を板 1-1 の溝 10 から脱す手掛りとなるばかりでなく、綴り紐 5-1 を切欠部 9 の位置で再度押曲げるために、綴り紐の長手方向の引張り外力、すなわち綴り力に抵抗する力が大になって、より厚めのファイルを作成することを可能としている。この種の綴り具は部品点数が少ない上に綴り力が強く、使い勝手が良く、しかも比較的に丈夫で、製造手段も効率的である。

しかし、上述の合成樹脂製帯状板 1-1 の構造は、形が複雑であって、これを熱可塑性合成樹脂を用いて射出成形により製造するのに成形用の型の形が複雑になって、その為、加工に手間がかかるばかりでなく、三つ割構成にしなければ型から製品を取り出し難いので、生産効率が低く、型製造のために少なからず設備投資が必要になり、コストダウンの障害となると云った問題点がある。

〈考案が解決しようとする問題点〉

そこで本考案は、従来知られている上記、綴り具のうちの合成樹脂製綴り具の利点を損うことな



く、しかも、その弱点を巧みに改善したところの書類綴り具を提供することを目的とする。

ロ) 考案の構成

〈問題点を解決するための手段〉

前記合成樹脂製綴り具は、部品点数も少なく、確実に綴れて使い勝手も比較的に良好であり、生産性も高いのであるが、帯状板1-1の形が複雑な為、その成形型の構造が複雑になって製造準備のための投資額が増加するのが欠点で、それと云うのも同綴り具の帯状板1-1には綴り孔2とか切欠部9などの不定形部分が設けられていて、その長手方向断面の形が一様でないため、帯状板1-1の成形にダイを用いた押し出し成形手段を利用することができないからである。

本考案綴り具の書類押え帯状板は、その長手方向直角断面が、どの部分においても可及的に同一になるよう努め、その成形をダイによる押し出し成形手段を用いて行うようにして、従来技術における上記合成樹脂製書類綴り具に内在する欠点を解消したものである。



なお、帯状板に設けた綴り紐の挿通孔は板の押し出し成形後にドリルなどの孔明け工具を用いて加工することとした。

そして本考案綴り具は次に述べる要件から構成されている。

- (1) 可撓性はあるが伸縮性が小さい、表面を軟質合成樹脂で被覆した適宜径および長さを有する綴り紐と、帯状板の上面に、その長手方向に沿い、相互に並行した二条のリブを立設して前記リブの対向する内側面と押え板上面とによって一条の綴り紐押込み溝を形成すると共に、前記溝の巾および深さは、前記綴り紐の径よりも僅かに狭いものとし、また、前記溝の底面長手方向適所に、少なくとも二個所の綴り紐径よりも僅かに太径の綴り紐挿通孔を穿設してなる帯状押え板より構成した書類綴り具。
- (2) 帯状押え板は硬質合成樹脂、アルミニウム材等の押し出し成形材より成る上記第(1)項記載の書類綴り具。
- (3) 綴り紐押込み溝の断面内側面はU字形、V字

形またはひ形より成る上記第(1)項または第(2)項記載の書類綴り具。

(1) 綴り紐の軟質合成樹脂被覆材の表面は、やや粘着性があつて粗面であることより成る上記第(1)項記載の書類綴り具。

<作用>

綴り葉に設けた綴り孔に挿通した綴り紐の一端を、帯状板の下面側から同板に穿設した綴り紐挿通孔に挿込むと、綴り紐は帯状板の上面の綴り紐押込み溝の底面を通して上側に伸びる。綴り紐の一端を摘んで引張り、かつ、押え板下面を綴り葉に押付けた状態で前記綴り紐を紐挿通孔の開口縁付近から折曲げて、これを前記板の紐押込み溝に沿って横たえ、その綴り紐余部を紐の弾性に逆らって、紐の径よりも巾狭な押え板の溝中に無理して押込む。

綴り紐の表面は、やや粘着性を持つ軟質合成樹脂材によって厚く被覆されているため、前記材が歪んで紐が溝中に嵌着すると、溝壁との間の摩擦力が大となって、紐は普通に受ける程度の、あら

ゆる方向からの外力に対して嵌合溝から脱れないようになる。勿論、紐と溝壁との接触長さを長くすることができるので、資料、書類等を厚くファイルするとき生じる綴り紐の長手方向に対する引張力よりも両者の接触摩擦力の方が大である。加えて、綴り紐は押え板に穿設した挿通孔の開口縁の個所から折曲げられているため、開口縁の角が綴り紐の被覆材に食込んで同部分が厚いファイルの重みで綴り紐に長手方向引張力が掛かっても、これに抵抗する力を生じる。

嵌合溝を形成する溝の壁面は互に並行に設けられるが、綴り紐の着脱の便宜からすると僅かに上に拡った面に形成しておく方が良い。しかし溝側壁の傾斜が綴り紐の嵌着作用を強く妨害する程度に大であってはならない。また、逆に溝の開口部を特に狭めて、不意な外力が掛っても綴り紐が溝から脱れ難いようにしても良い。

いずれにしても嵌合溝の開口縁は面取りを施しておいて、溝に沿って紐をのせ、その上から強圧すれば綴り紐が溝内に押込まれ易いように形成す



る。綴り紐は上述のように嵌合溝に密嵌するため、別に紐の先端を押えるような部材を必要としない。

ファイルから綴り葉を脱したいとき、または新たな資料を綴込みたいときには押え板の溝に嵌合している綴り紐の端を摘み、これを溝外に引出して引張るようにし紐と溝との嵌合を解除して、綴り紐から押え板を脱すことにより行う。頻繁に綴り葉の着脱を行う場合には、この為、綴り紐の端一部を嵌合溝外に出して置くと紐の摘みが容易になり、能率的に作業を進めることができる。

なお、押え板に設けた綴り紐挿通孔は、異なる間隔で複数対穿設するようにし各種タイプの綴り孔を持った綴り葉に対して、一種類の書類綴り具で対応することができるようにする。

綴り紐の溝に対する摩擦力は専ら、紐の被覆材の材質に基くところが大きいから、これに表面滑りのよいポリエチレンとかナイロンなどの合成樹脂を使用する場合にはその表面に、剝れ難い薄い滑り止め液を塗着して使用することが望ましい。

押え板は硬質合成樹脂、特に熱可塑性合成樹脂

であれば良く、紐の被覆材に材質の選択は厳しくないが、作用、効果上表面摩擦係数の小さなもものでない材質を使用する方が好ましい。

もっとも、アルミニウムなどの押出し成形材も採用することが可能である。

<実施例>

第1図は本考案綴り具の一実施例の斜視図であつて、図中、1-2は硬質塩化ビニールのダイによる押出し成形材より成る帯状板で、その長手方向に直角な断面は、第2図(a)、(b)および(c)に示すように、平らな底板11の上面に、その(a)では上方開口のU字形リブ12を結合したもの、(b)の実施例では上方開口のV字形リブ13を連結した形、その(c)の実施例ではひ形リブ14を立設し底板11の上面中央に一条の溝15を備えたものとし、前記溝15の溝巾は、いずれもビニール紐より成る綴り紐5-1の径よりも、やや小さく、しかし、無理に紐5-1を溝内に押込めば、紐の被覆材が歪んで溝15中に嵌着し、また強く引出せば嵌合状態から脱れる程度の巾とする。また、溝15の上部開口縁は面

取りを施して、綴り紐5-1を溝の開口にのせ、これを溝中に押込む際には比較的に抵抗力を生じさせず紐5-1を溝中に嵌合させるようにしている。2は溝15底の中央で、かつ帯状板1-2の長手方向に所定間隔を置いて穿設した綴り紐挿通孔(綴り孔)である。

綴り紐5-1は、第3図(b)に示すように中央芯にナイロン繊維、グラスファイバー等の可撓性があるが伸縮性の少ない糸状材を用い、その周囲を軟質の塩化ビニールで厚く被覆して断面を丸形にし、径を2.5mmφ位の太さにしたものである。

再び第1図中、3は綴り葉、4は綴り葉3に設けた綴り孔で、綴り紐5-1は下側面から綴り葉3に穿設した孔4を通して帯状板1-2の綴り孔2に挿通し、これを溝15に沿って孔2の部分で折曲げ、その余の端部を帯状板の嵌合溝15内に嵌着させている。

第3図は綴り具を構成する部品の斜視図で、その(a)は帯状の書類押え板1-2の一実施例、11は帯状底板、12は断面がU字形のリブで、押え板1



— 2 の長手方向に沿い底板 11 の上面に連設され、リブとリブおよび底板 11 により上方に開口する溝 15 が形成されている。

その(b)は綴り紐 5-1 で、その詳細構造は前述したとおりである。

綴り紐 5-1 は長い素材から必要長さだけ切断して、そのまま使用する。

前記構造より成る綴り具の使用方法および、その作用、効果は、上述<作用>の項に記載した事と重複するので、その説明を省略する。

ハ) 考案の効果

本考案は以上述べたとおりであるから、その押え板はダイを用いた押し出し成形材を切断して綴り孔を穿設するだけで成形することができる上に、その綴り力、使い勝手は従来品に比較して遜色はなく、かえって綴り紐と嵌合溝との間の摩擦力が大きく厚いファイルを形成するのに耐えることができる。

すなわち、構造が簡単で部品数が少なく生産費を低減することができ、しかも綴り作用は従来品

に勝るとも劣らない書類綴り具を提供することができる。

4. 図面の簡単な説明

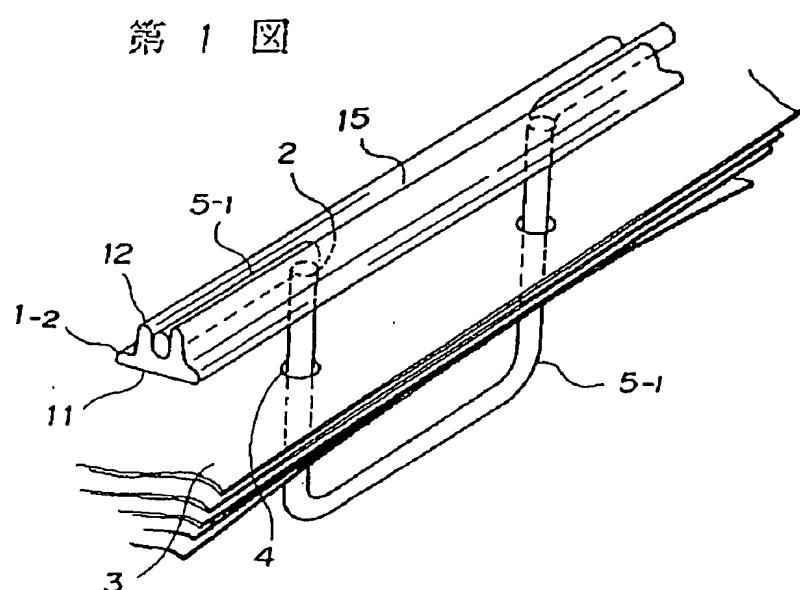
第1図は、本考案綴り具の一実施例の斜視図、第2図(a)、(b)、(c)は前記綴り具の押え板の各実施例の断面図、第3図(a)、(b)は同綴り具の構成部品の斜視図、第4図および第5図は公知の書類綴り具の一例を示す斜視図である。

1 - 2 … 帯状押え板	
2 … 綴り紐挿通孔(綴り孔)	
3 … 綴り葉	4 … 綴り孔
5 - 1 … 綴り紐	11 … 帯状底板
12 … U字形リブ	13 … V字形リブ
14 … ヒ形リブ	15 … 嵌合溝

代理人 弁理士

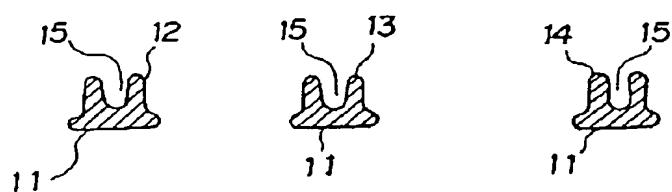
安 達 房次郎

第 1 図

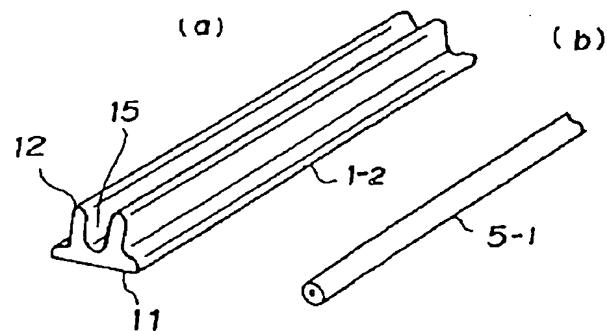


第 2 図

(a) (b) (c)



第 3 図



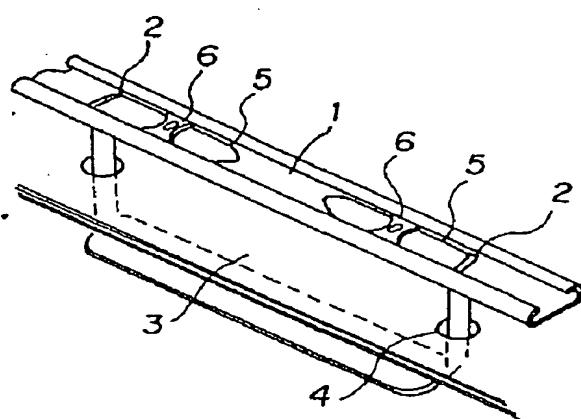
出願人代理人 安達房次郎

733

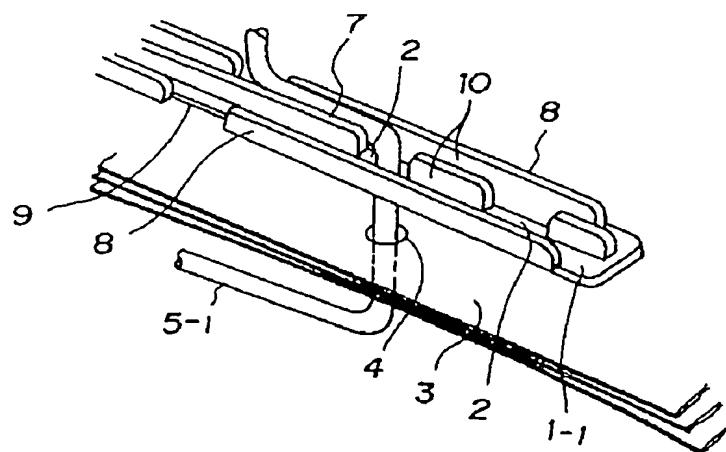
実用新案登録 1611070

公開実用 昭和62-162070

第4図



第5図



出願人代理人安藤 功 氏 様 734

実用新案登録請求書

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER: _____**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.